

新涯学区 防災避難計画



編集後記

「新涯学区防災(避難)計画」は2017年に策定し、すでに7年が経過しています。その間にも地震や風水害などによる災害が全国各地で発生しています。「令和6年能登半島地震」は記憶に新しいところですが、こうした現状を見据える中で、この度「新涯学区防災避難計画」を改訂しました。

南海トラフ巨大地震が発生すると、地震や津波被害は、新涯学区でも起こりうることです。「津波なんか来んじゃろう!」と思わないでください。災害が発生した時、自分と大切な人の命を守る行動がとれるよう、「新涯学区防災避難計画」を家に保管し、一人ひとりが防災対策を心がけましょう。

新涯学区自主防災協議会

2024年(令和6年)3月 改訂

目次

- 1 基本的な考え方 1
- 2 活動方針 2
- 3 避難行動要支援者等への支援 3
- 4 新涯学区の特性について 3
 - (1) 特性 3
 - (2) 風水害 4
 - (3) 地震・津波災害 5
 - 〈Ⅰ〉液状化現象 6
 - 〈Ⅱ〉地震による浸水 8
 - 〈Ⅲ〉津波による浸水 9
- 5 避難行動の基本方針（風水害） 10
 - (1) 風水害の避難先 10
 - (2) 風水害の避難経路 10
- 6 避難行動の基本方針（地震・津波） 11
 - (1) 地震が発生したら 11
 - (2) 地震・津波災害の避難経路・避難方法 11
- 7 避難行動の考え（具体的に気をつけること） 12
- 8 地域の防災対策 13
 - (1) 防災資器材等 13
 - (2) 自主防災訓練の実施 14
 - (3) 資器材、器具等の点検 14
 - (4) 避難行動要支援者への支援体制の整備 14
 - (5) 活動体制（地震・津波 / 風水害） 15
 - (6) チェックリスト 16
 - (7) 家庭での防災・減災対策 19
 - 〈Ⅰ〉避難経路の確認 19
 - 〈Ⅱ〉家族や友人との連絡方法の確認 19
 - 〈Ⅲ〉非常時持ち出し品の準備 20
 - 〈Ⅳ〉家の中や周りの点検・補強 21
 - 〈Ⅴ〉情報の収集 21

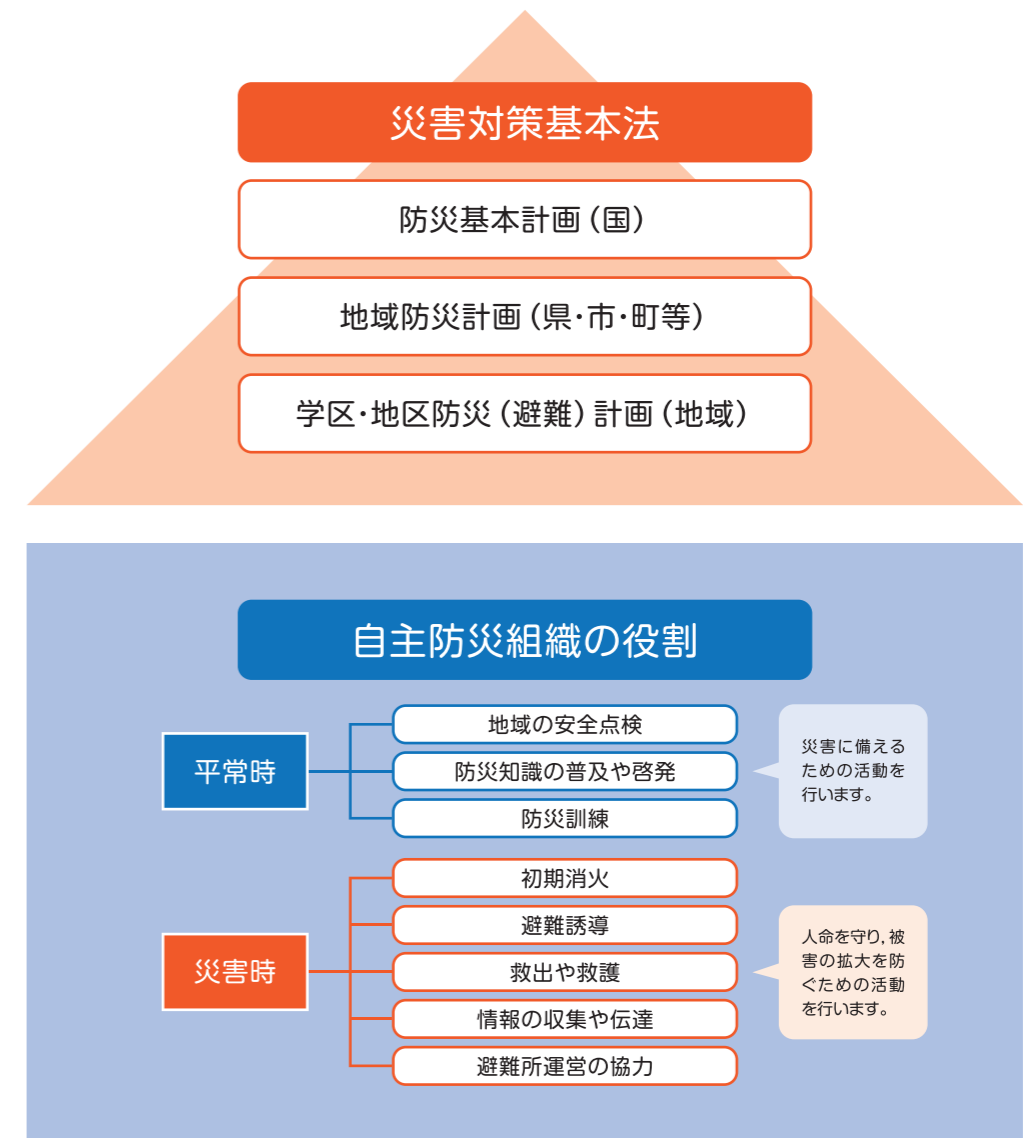
1 基本的な考え方

災害が発生した直後は、道路の損壊・渋滞、情報伝達の支障、家屋の浸水や倒壊、火災の同時多発などにより、消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そんなとき、力を発揮するのが「隣近所や地域ぐるみの協力体制」です。

実際に、阪神・淡路大震災のときには、地域住民が自発的に救出・救助活動を行い、多くの人命を救うとともに、その後の復興にも大きな力を発揮しました。

また、東日本大震災、熊本地震、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）のときのように避難所生活が長引く場合にも、地域住民が助け合って、さまざまな困難を乗り越えなければなりません。

新涯学区では、「自分の命は自分で守る」「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで、地域のみみなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。



2 活動方針

- 平常時**………… いざというときに地域の力が発揮できるよう、地域のみんで協力して防災活動に取り組みます。
- 災害時**………… 負傷者の発生や火災・家屋の浸水や倒壊・橋梁の崩壊・インフラの寸断・液状化など様々な事態が発生する可能性があります。新涯学区自主防災協議会や各町内会を中心に公共機関とも連携しながら、みんなで力を合わせて活動します。

平常時の対応	災害時の対応
<p>①防災知識の普及・啓発 防災対策では、地域住民の一人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。地域住民への防災知識の普及や啓発活動を行います。</p>	<p>①情報の収集・伝達 新涯学区自主防災協議会・町内会が中心となって、公共機関などから正しい情報を収集し、地域住民に伝達します。また、地域の被災状況などを取りまとめ、災害対策本部へ報告します。</p>
<p>②地域の安全点検 防災の基本は、自分たちの住むまちを知ることです。地域の危険な場所や防災上問題のある場所などを確認し、改善のための働きかけなどを行います。</p>	<p>②救出・救助活動 自分自身がケガをしないよう注意しながら公共機関などと連携し、みんなで協力して負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を行います。</p>
<p>③防災資器材の整備 防災資器材は、災害発生時に活躍します。地域で防災資器材を整備し、日頃の点検や使い方を確認します。</p>	<p>③初期消火活動 消防車が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐための初期消火活動を行います。</p>
<p>④防災訓練 防災訓練は、いざというとき、あわてず、的確に対応するために欠かせない活動です。地域住民に積極的な参加を呼びかけて、訓練を行います。</p>	<p>④医療救護活動 医師の手当てが受けられるまでの間、負傷者の応急手当をして、救護所へ搬送します。</p>
	<p>⑤避難誘導 地域住民を安全な避難場所などへ誘導します。</p>
	<p>⑥給食・給水活動 地域で必要な物資を把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて炊き出しなどの給食・給水活動を行います。</p>

3 避難行動要支援者等への支援

災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障がい者、子ども、外国籍の人など、人の助けを必要とする人(避難行動要支援者)です。

避難行動要支援者の視点で防災環境の点検・改善を行い、避難するときは、隣近所と助け合いながら避難することが大切です。そのためには、いざというときに円滑な支援ができるよう、日頃からコミュニケーションを図っておく必要があります。

非常時や困った時こそ温かい気持ちで接することが大切です。
思いやりの心を持ちましょう。



4 新涯学区の特性について

(1)特性

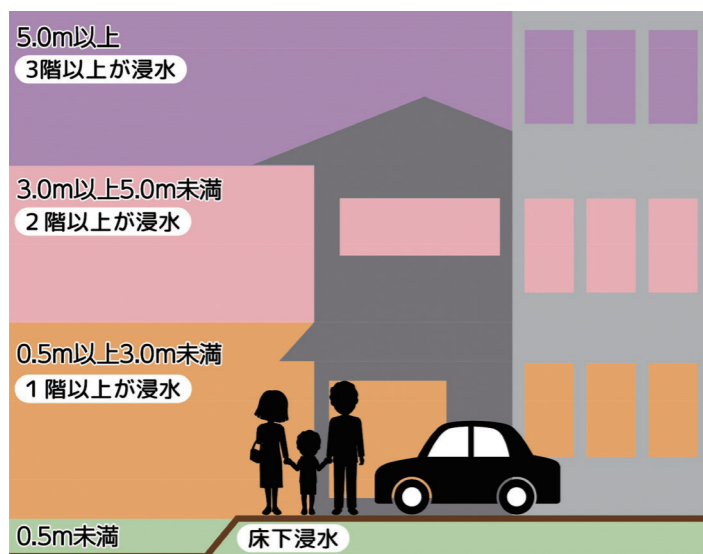
- 新涯学区は、約150年前(1867年慶応3年)に干拓によって形成された地域で、一文字堤防を境に、海抜マイナス0.1m~0.7mにある。
- 海に面した地域で、地盤が低く、津波による被害を受けやすい地域である。
- 一級河川の芦田川下流の左岸に位置し、豪雨災害を受けやすい地域にある。
- 近隣にある茶山の隣接地では、土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)及び、土砂災害警戒区域(イエローゾーン)に指定された場所がある。
- 急速に宅地化が進み、農地の保水力も弱まっており、短期間の豪雨で床下浸水の被害を受ける地域もある。
- 梅雨時、台風来襲時、線状降水帯など長時間の雨が続くと排水ポンプの排水能力を超え浸水の被害を受ける危険性がある。



2004年(平成16年)台風16号
新涯町二丁目 福山港付近
高潮による浸水被害

(2) 風水害

新涯学区は芦田川の堤防決壊による浸水想定区域内であり、最大3.0m以上5.0m未満(2階以上が浸水)の浸水が想定されている。また、茶山付近には土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)及び、土砂災害警戒区域(イエローゾーン)があり、土砂災害に警戒が必要な場所もある。



浸水想定区域の凡例

土砂災害の凡例

- ◆がけ崩れ
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
- ◆土石流
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域

●土砂災害特別警戒区域とは、建物が破壊され、人命に大きな被害が生ずるおそれがある区域のことです。

●土砂災害警戒区域とは、土砂災害のおそれがある区域のことです。

土砂災害の凡例

(3) 地震・津波災害

南海トラフ地震は、今後30年以内に発生する確率が70~80%といわれており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから、地震が起きる切迫性が高い状態にあります。

最大クラスの地震が発生した場合、福山市は最大震度6強、津波の高さは最大で3m以上、津波の最大波到達時間は4時間30分後となっています。(※第一波が最大波になるとは限りません。)さらに、最大で1.7mの地盤沈下も想定されているため、建物の倒壊、道路の陥没、橋梁の倒壊など避難や救助に時間を要する可能性があり、長期にわたり大きな被害が想定されています。

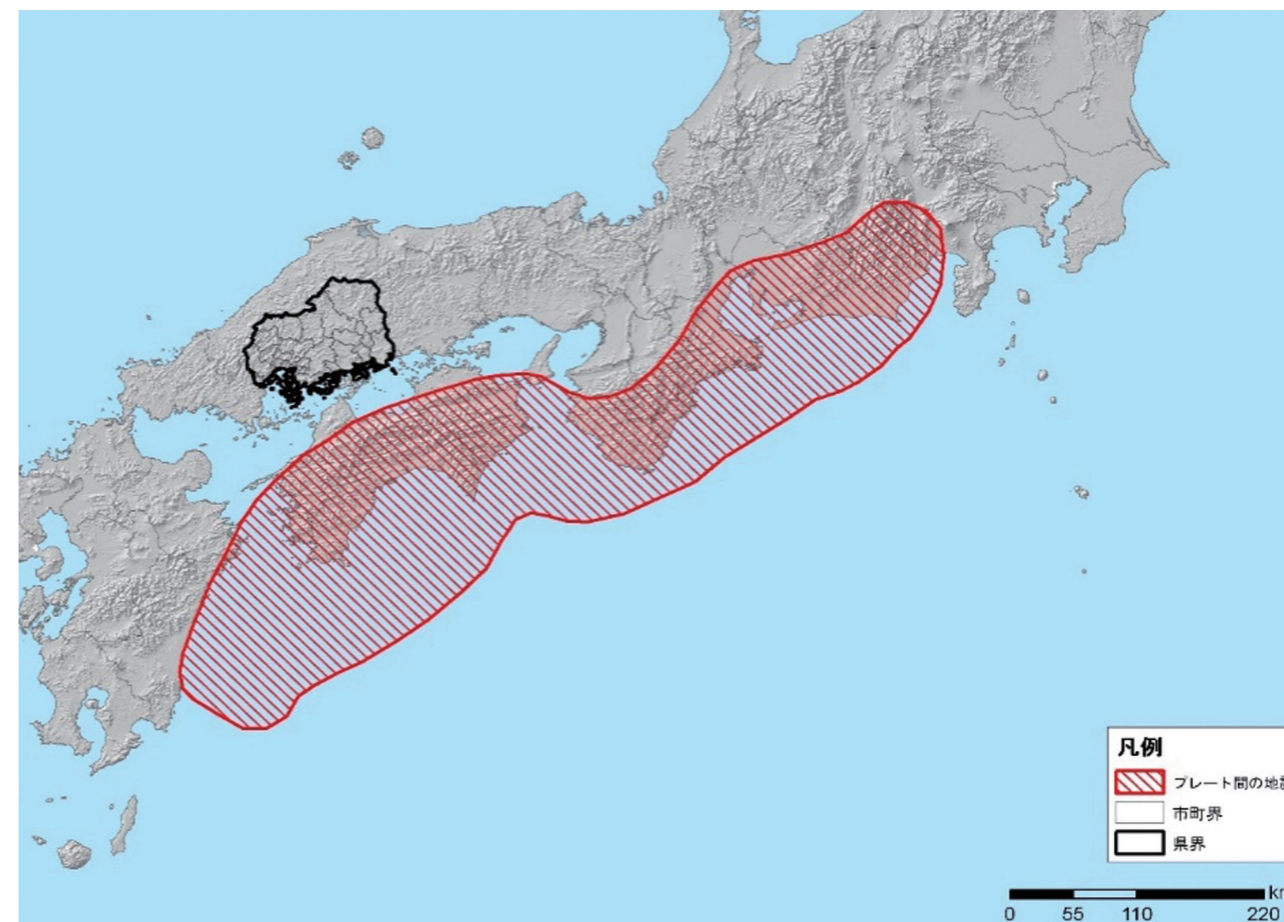


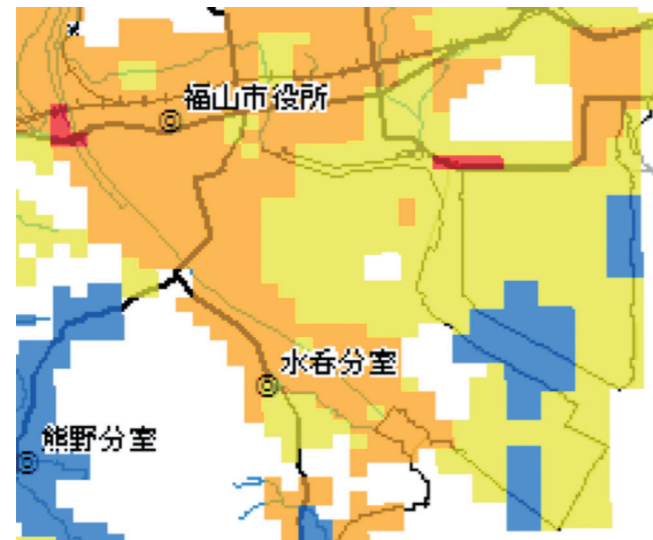
図 想定地震位置図(南海トラフ巨大地震)
内閣府(2012):南海トラフの巨大地震モデル検討会資料

《福山市で想定される南海トラフ巨大地震について》

マグニチュード	M9.1
震度	福山市では最大震度6強
揺れ	約4分間
最大津波水位	3.3m



〈I〉液状化現象

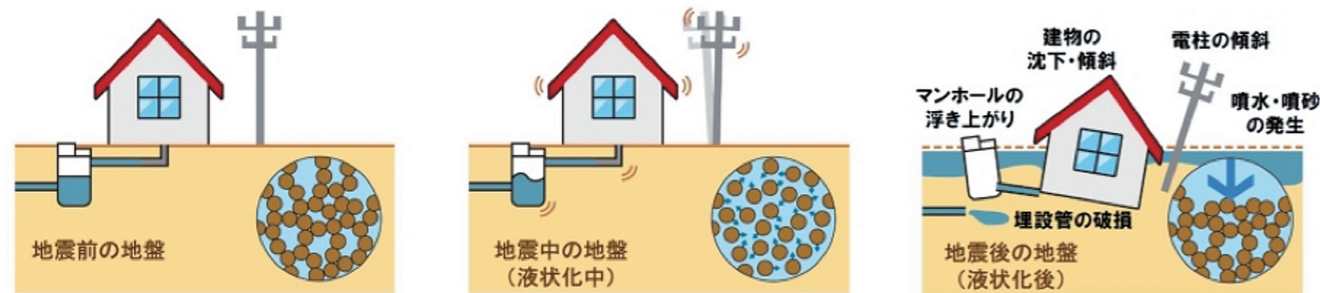


《凡例》 (液状化指数PL)

■	30 < PL	…極めて高い
■	15 < PL ≤ 30	…かなり高い
■	5 < PL ≤ 15	…高い
■	0 < PL ≤ 5	…低い
■	PL=0	

《広島県地震被害想定調査報告書より》

新涯学区では、液状化現象により道路陥没などで、避難行動や救助活動に時間がかかり、また、住宅が傾くなど深刻な被害が発生することも想定されています。



土の粒子が互いに支えあい、その間を水が満たして地盤を支えている。

地震によって、土の粒子の結合がなくなり、水に浮いた状態となる。

土の粒子は水と分解し、地盤の沈下や亀裂が発生する。



液状化現象でマンホールが浮き上がった状態



地盤の液状化は、1964年(昭和39年)の新潟地震をきっかけに注目されるようになりました。建物が倒れたり、水道管が壊れて水が止まってしまうなど、生活に大きな影響が出ました。

液状化現象とは何か？

地震が発生して地盤が強い衝撃を受けると、水分を含んだ地盤(今まで互いに接して支えあっていた土の粒子)がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象のことをいいます。

地下水が浅い所にあり、砂を多く含む地盤で発生しやすく、砂丘や三角州、埋め立て地、干拓地などは注意が必要です。

液状化現象が発生すると、地盤から水が噴き出したり、地面が液体のようになってしまうため、建物は沈んだり傾いたりし、マンホールや下水道管は浮き上がったり、地面全体が低い方へ流れ出すといった現象が発生します。



道路上への噴砂の堆積(熊本市)



基礎杭の抜け上がりによる段差の発生(熊本市)



建物の傾斜・沈下(熊本市)

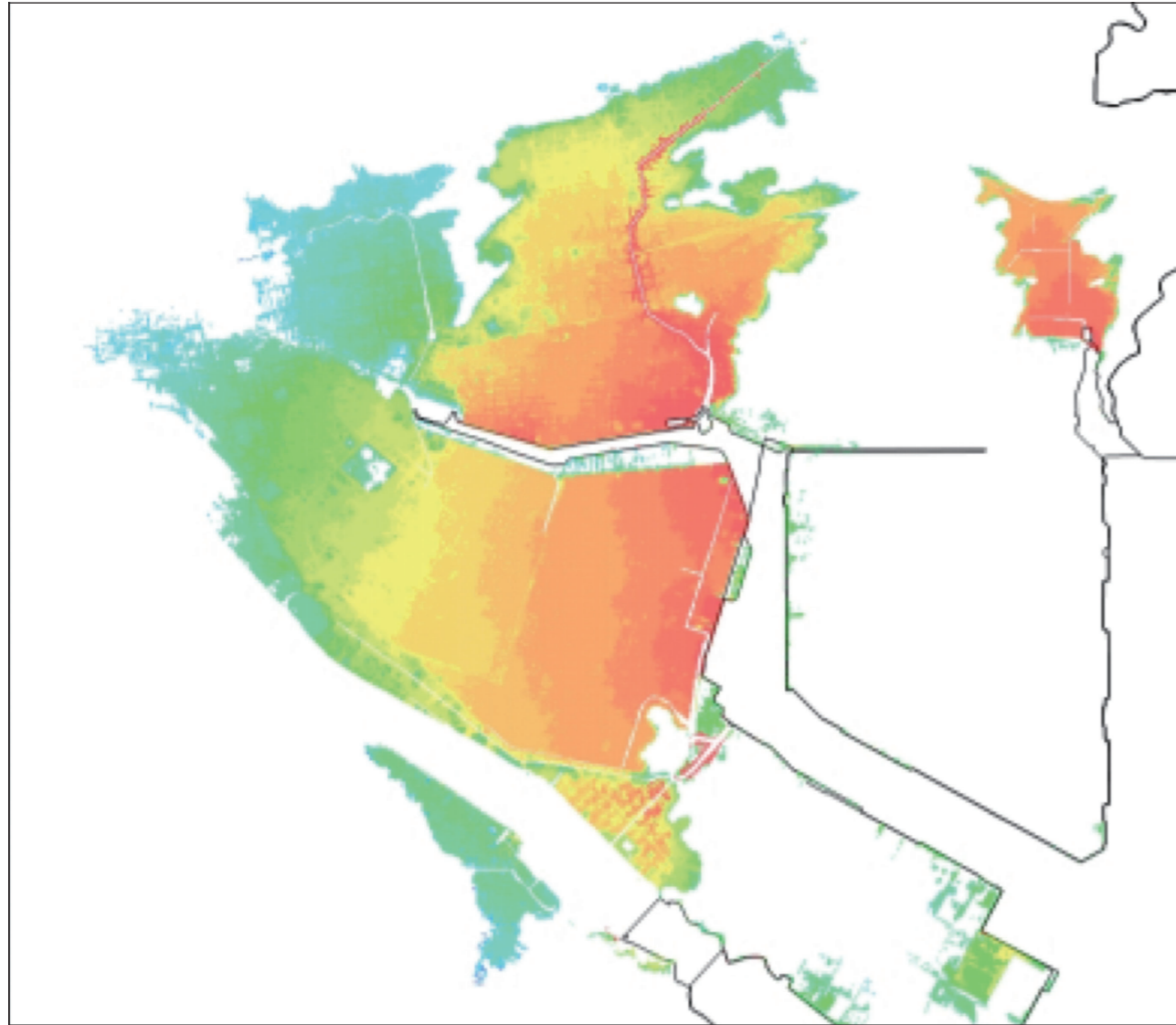


電柱の沈下(熊本市)

新涯学区の地盤や地形をよく理解し、地盤沈下にも備えておきましょう。

〈Ⅱ〉地震による浸水

堤防や水門が破損すると、新涯学区では早いところでは約5分後から海水の流入(30cm)が始まり、避難行動の妨げになることが想定されています。



浸水開始時間(30cm)

5分未満	240分以上～270分未満
5分以上～15分未満	270分以上～300分未満
15分以上～30分未満	300分以上～360分未満
30分以上～60分未満	360分以上～420分未満
60分以上～90分未満	420分以上～480分未満
90分以上～120分未満	480分以上～540分未満
120分以上～150分未満	540分以上～600分未満
150分以上～180分未満	600分以上～660分未満
180分以上～210分未満	660分以上～
210分以上～240分未満	

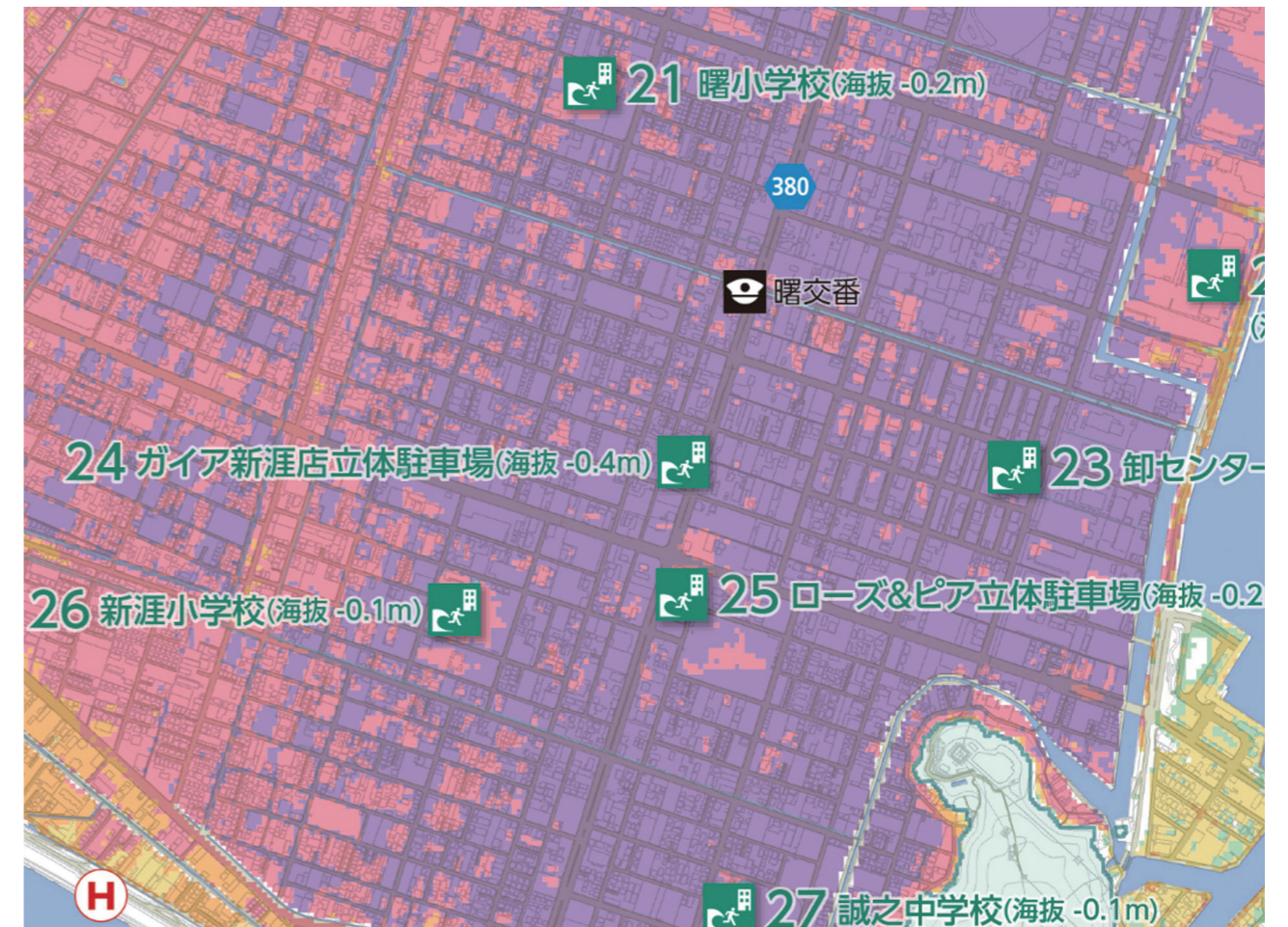
広島県地震被害想定
調査報告書より

〈Ⅲ〉津波による浸水

新涯学区では、津波の高さは最大で3～5mと想定されています。最大波の到達時間は4時間30分後と想定されていますが、最大波が第一波とは限りませんので地震発生後は速やかに避難行動を開始し、高台や強固な建物の3階以上などに避難する必要があります。

※原則は高台など津波が来ない場所への避難です。

※歩行に不安のない人は、徒歩でできるだけ安全な場所や浸水想定区域外に避難してください。



福山市津波ハザードマップより

福山市津波ハザードマップ及び福山市水害ハザードマップは、必ず家に保管しておきましょう!!



津波の浸水想定区域(浸水深)

3m以上
2-3m未満
1-2m未満
0.3-1m未満
0.3m未満

海拔

5.0m以上(津波避難適地)

《浸水区域外の安全度の高い海拔5m以上の区域》